

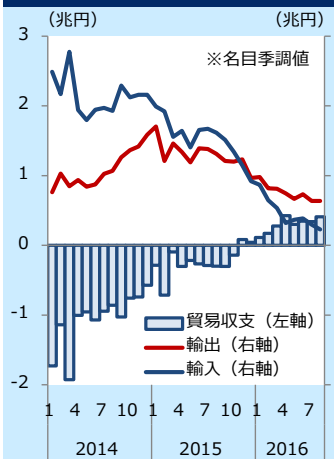
# 日本：貿易統計（2016年8月）

## 一円高続くも、8月の輸出数量は小幅なプラスに一

# MRI Daily Economic Points

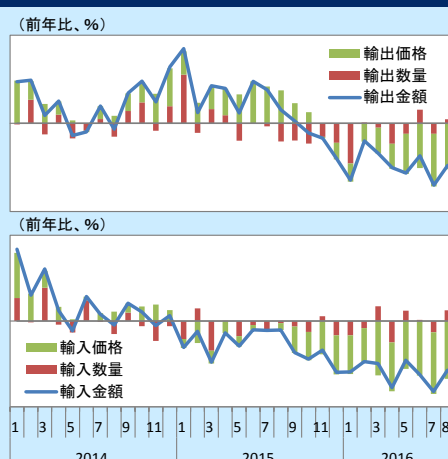
## September 21, 2016

### 貿易収支



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

### 輸出入金額の寄与分解

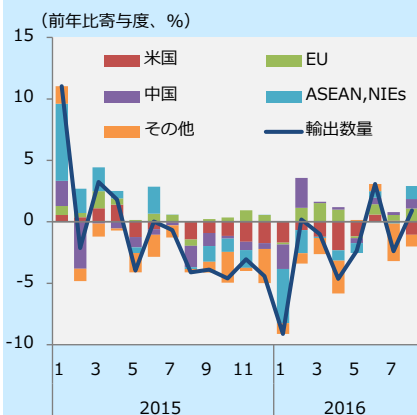


### 評価ポイント

#### 16年8月の結果

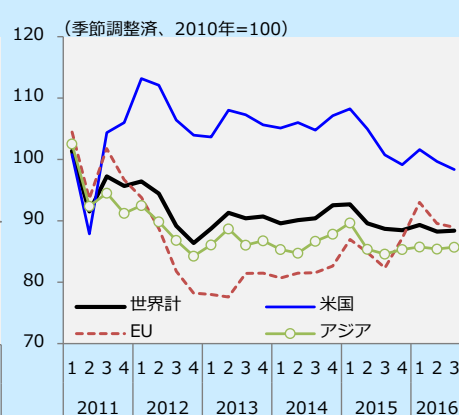
- 16年8月の貿易統計は、輸出が前年比▲9.6%と11ヶ月連続で減少。輸入も同▲17.3%と20ヶ月連続で減少した。貿易収支（季節調整値）は、+4,084億円と10ヶ月連続の黒字。
- 8月の輸出金額の内訳をみると、輸出数量は前年比+0.9%と小幅なプラスに転じた一方、輸出価格が同▲10.4%の低下となった。輸出価格は、10ヶ月連続のマイナスであり、資源価格の下落は持ち直しつつあるものの、円高の影響により下落している。
- 輸入金額も減少が続いている。8月の輸入数量は前年比+3.7%のプラスとなったものの、前年対比の円高・原油安により引き続き輸入価格が大幅下落。
- 地域別の輸出数量をみると、米国向けは、設備投資の低調さを背景に一般機械輸出が不振であり、前年比▲5.6%と減少。一方、EU向けは、輸送用機械輸出の増加などから、同+10.2%と高い伸びをみせたほか、アジア向けは、中国向けを中心に、新型スマートフォン向け部品とみられる電気・電子機器輸出が増加に寄与しており、同+3.3%のプラスとなった。

### 地域別輸出数量寄与分解



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

### 輸出数量（季節調整値）



注：三菱総合研究所による季節調整値。16年3Qは、16年7-8月の値。

#### 基調判断と今後の流れ

- 足元の輸出は、前年比では改善傾向もみられるものの、依然として横ばい圏内で推移している。
- 先行きの輸出は、米国経済の堅調持続や中国の景気刺激策の下支えによる減速ペースの緩和もあって、緩やかながらも回復に向かうと見込むが、その回復ペースは非常に緩慢なものになるであろう。円高による輸出環境の悪化が重石となるほか、好調を維持してきた米国の自動車販売も銀行貸出基準の厳格化により陰りがみられ始めていることが背景にある。
- 世界経済は引き続き不確実性の高い状況にある。日米の金融政策の行方、米国大統領選の動向、英国のEU離脱問題の今後の展開次第では、海外経済の下振れや一段の円高進行が、輸出の下振れ要因となるリスクを抱える。